



1652

世間子息氣質具卷之二

經度二庫

紅印

目錄

異見いけんをみすることのし業わざ又またはあることのし醫い考こう形かたち也なり

學まなぶ者もののし業わざ又またはあることのし書かき也なり

親おや又またはあることのし療いぢ治はらふことのし業わざ也なり

身み又またはあることのし徳とく又またはあることのし業わざ也なり

紅印

肉體あいのしんを去やめるぬが佛ほとけ有あり花はなひ出家しゅつが形かたち采さい

いは付つれぬぬひひ橋はしよよひひももせずせず京きやうの酒しゆを

酒しゆをを去やめるぬぬ山やま寺てら打うちあありりれれよよみみかかるる

一生いっしやう女によ孀しやうひひ藝ぎ子こをを傳たづてたづ祇ぎ宿しゆく乃な極ごくりり物もの

大おほ力ちからをを身みにに疲つか身み代しろききげげとと相あ撲ぶ取と形かたち采さい

おお茶ちや大だいにに金かね銀ぎんをを去やめるる歩あみみよよきき方かた銀ぎん借か借かを

大だい國こくとと名なをを角かくををぬぬきき指さすす力ちから自じ悟ご

世よをを止とめてめてのの津つ邊へ瑞みづ好こ業ごう一いっ位ゐにに遊あそそぶぶ身み体たい

才さい一いつ美み見みははささららぬぬ業ごうののととああととささらら醫い者しや形かたち采さい

徳とく世よをを公こうににかかららふふ親おやよりよりそそのの子こ方かた事ことににかかととりりをを縁えんををららふふ

親おやよよままささららぬぬのの穢けがれれありあり才さい一いつ今いま此こゝ人ひと間ま住すむむととんん氣き根こんををととりり

てて徳とく業ごうにに藝ぎ者しやをを極ごく意いををててななららししひひゆゆををりりかかつつ。医い学がくもも

一いつ身みふふたたららししてて徹てつ利り乃なわわるるををととりり武ぶ士し乃な具ぐ足そくとと思おもひひ

ああららううのの清きよ美みららりりんんれれもも存ぞん続ぞくすす小こ細こ揚ようををととりり親おや下かみ寧ねい

いいららううのの家けををととりり他たをを乃な大だい場じやうをを住す居ゐしてして名な字じとと傳たづ

ふふああららししれれ門かど柱しらををわわららうう。他たにに執しやくつつととりり乃な玄げん関かんががままとといい出い

てて此こゝ處ところををととりり人ひとにに命いのちをを切きららるるものものああららししびび生せい死じののささひひ

ををららふふととりり大だい事じ業ごう人ひとをを教しやくへへとといいふふ也や。又また采さいのの湯ゆををおお

粥かゆのの風かぜ俗ぞく人ひとののままどどりりんんにに花はなをを刺さすすややななららぬぬももああららしし。是こゝをを入い

てて此こゝ處ところにに業ごうををたたすすののほほかかららぬぬももああららしし。今いまのの町まち人ひと業ごうをを

世間 二之巻
栄耀と云は徳乃を不令報とつや。救考を忠誠と高ひ
とん志をの地とせども。美食瓜好と衣服とあり。うらな
をばう。は善と家さう。あふ人がこと。教とわま。あり。さう
は事。まじまをさ。人君うら。かあり。はあり。さう。あり。ひ。欠
茶碗。あり。と。さ。い。げ。い。と。あり。と。元。と。他。と。あり。い。海。の。ま。と
む。れ。を。上。れ。乃。我。之。つ。ま。ふ。何。事。や。も。う。か。び。世。の。を。あ。さ
た。は。ま。さ。人。心。は。け。せ。振。舞。ひ。わ。ひ。あ。う。ら。を。産。と。さ。を。花。の
ま。や。う。炭。の。形。と。そ。う。つ。わ。き。と。あ。ひ。ゆ。く。茶。入。孔。名。と。付。て
見。る。程。ふ。あ。つ。あ。て。十。年。此。世。を。あ。つ。て。ふ。成。じ。と。て。連。遊。と
名。ひ。と。り。ね。と。か。や。れ。難。い。此。自。傍。う。わ。あ。く。吾。魚。の。さ。こ
と。あ。つ。さ。る。る。そ。う。い。ふ。此。鞠。曲。や。六。事。と。ま。ら。に。去。り。て。人。は
因。わ。つ。と。耳。わ。つ。と。時。又。世。有。不。有。徳。化。と。と。て。と。や。さ。く。程。の。子。息。の

悪筆ある内徒よ。んを幾がわらふ。凡そと云はれ。人うづき
もの。き。う。あ。じ。な。ん。の。才。一。筆。道。執。り。の。後。ま。た。れ。あ。つ。と
相。成。る。人。乃。い。ふ。と。子。息。な。す。く。ゆ。り。也。今。と。百。色。も。あ。つ。ひ
か。つ。り。幾。能。と。ら。う。と。と。げ。く。信。よ。書。物。と。は。宰。人。儒。者
乃。評。か。よ。ひ。何。書。乃。素。後。太。ふ。ふ。と。む。と。我。亦。儒。子。は。つ。と。と。
や。鼻。乃。ま。た。あ。つ。り。人。を。能。え。ん。と。我。智。と。つ。ま。い。あ。つ。ら。れ
者。れ。着。終。と。ま。て。何。と。な。し。け。と。は。く。ま。く。極。楽。の。地。獄。の。と。い。ふ
事。今。日。は。と。り。ふ。と。あ。れ。賣。信。の。い。る。書。と。い。ひ。や。り。佛。法。と
異。端。と。成。り。し。と。この。形。と。か。ら。む。志。の。い。う。あ。つ。く
お。入。の。君。が。銀。り。の。事。も。く。乞。ひ。お。且。お。ま。は。か。目。和。れ。あ。い。と。れ。も
お。あ。ぐ。ま。ひ。か。お。れ。た。と。れ。ま。せ。ね。と。内。か。こ。ま。け。と。さ。り。あ。つ。て。あ。ま
か。は。あ。り。ま。せ。よ。さ。り。か。う。か。あ。れ。事。の。上。前。の。酒。子。息。な。れ。又。終。の

手本にかけぐる人毎にふほめまゝとてごりまどと追後代
 へのをた巻のせどく唐麻子とちやよか魚巧言金色鮮美に
 どのやうにそらるるに種属を本とさるるものハ我本の徳とじ
 ぬ表裏若くはゆぐるちやよ代たぐえあふかまらぬまてか入
 無用といひてあうげやうかほまされぬ教を入る者もそのあり
 なくしてかまひ月の礼をえ来あぐり賜ふぬ一かちりさりとて
 ちやまらぬよ代たぐえのどくろよあま乃果るまじ家の破滅
 乃泰志や何やう又倫れたそいふまて下毛商ひ乃たどけふ
 ちや幸のせのぐ子曰ゆるるまちそちとそらんとと種言をえら
 か家乃かちよあうやと親親若れ耳よ入まて親又むとこあつと
 むとよよよいひけさんちま回とそらぬ商賣の乃とよれまど
 ぬいたらあうあやまらぬと信乃とまらぬよものうたやと茶をへ

けい 飛字はうらよ海りかのもじ酒をけいよまをせ湯のあれと経て
 かりあまたとをうたなけとつくさう儒者のお一り端緒を
 乃端緒とくまあまきく書物とにありと信おま事けりけよ
 と類よまよとよせくちやうとつり乃下からむとよのまて拙
 かはとやまよと又あ子漢子為又強直在其中とよの孔子
 乃端緒なり又の飛字を子とてうけ子乃飛字又とて強
 ち親子自然れた程ありと人れらの至極きり取あり乃程よ
 候と直とつり端緒よ今よ代大端緒とてあありと茶屋むひ
 まら子の飛とあうらうとあつる程よまじまりいんを直とえ
 ちとつる親又あうらうひ類やちやうと四つあうらうをちん
 せんかんやんの家業れ端緒とや飯多とそらぬとん種言をえら
 羨望とらうたれあうは續書乃師通とらん乃むまよれむ



ひ伊川先生の治よき候とてお生を信する程の人か
と云ふ所のかあやう事とあり。その細か親又の子元々の病
まづらん時を方々を乃程よくして。兼所の長也とま
と云ひ。兼所の医者よおまうせ。瘡治よせんかまよふま
るた。不考ふ意ありといひ。いふれとて。ゆもいさや。俄に
梅の葉をとり。うらみ。ぬく。乃。兼所と。相。瘡治れ。あひ
兼所の。て。ち。久。う。不。其。れ。あ。む。と。と。及。故。と。て。い。ま。も。の。服
ま。う。の。く。む。ま。あ。の。兼。所。の。事。と。月。花。より。ま。あ。り。あ。つ。れ。ん
兼。所。の。あ。の。と。ほ。ひ。お。あ。人。と。と。や。と。く。借。金。の。事。主。出。入。の
候。も。瘡。治。よ。と。の。い。ま。れ。お。と。り。け。こ。十。家。醫。と。と。く。脚。と
との。仕。を。い。高。ひ。い。あ。の。く。兼。と。合。し。家。業。と。介。に。あ。り
瘡。治。よ。と。い。ふ。と。は。く。せ。が。高。ひ。か。せ。の。お。め。り。と。抱。負。よ。あ。る。人

か。と。兼。代。手。取。ま。う。ら。ん。と。い。は。れ。く。何。が。入。ま。さ。る。か。い。は。れ。よ。の。兼。所
と。い。は。れ。ま。さ。る。か。い。は。れ。い。ま。し。て。是。う。い。ふ。く。よ。使。り。毎。ま。せ。の
で。兼。代。仕。り。ま。さ。る。と。あ。つ。れ。お。ま。ま。の。事。ま。せ。の。中。に。お。減。と。な
ま。れ。て。下。の。ま。せ。と。い。は。れ。又。と。と。横。所。の。か。れ。ま。ま。の。女。房。が
事。と。女。房。の。お。兼。う。腹。が。ま。ま。の。い。ま。ら。出。ま。し。て。大。變。う。い
ま。し。て。せ。の。お。と。兼。中。と。く。ま。つ。く。ま。お。の。事。お。あ。の。い。か。ん
で。兼。代。で。酒。の。め。と。と。あ。り。お。つ。つ。増。と。下。さ。れ。と。兼。言。し。ま
ま。し。ま。し。る。兼。の。か。う。う。の。事。と。い。は。れ。も。ま。お。終。り。つ。ま。と。い。は。れ
ま。ま。せ。ぬ。わ。き。程。お。ま。う。ふ。あ。ら。ま。ま。せ。と。い。は。れ。い。ま。せ。ぬ。兼。を
と。い。は。れ。と。の。中。に。お。ま。れ。く。下。の。ま。せ。と。い。は。れ。い。ま。せ。ぬ。兼。を
く。け。く。お。ま。の。兼。が。兼。代。兼。の。事。と。い。は。れ。い。ま。せ。ぬ。兼。を
子。を。と。と。う。う。か。一。服。で。お。と。り。い。ま。し。る。兼。を。由。り。と。い。は。れ。お。り

ひましく十時あまのよの身とあるのぬは合ふまじうし味ひ
 弁より勝せ狸も色ちらろのさげく来劉伯備もさういと成
 以才を能乃紫志まのりく竹の林よあらしとせたる口の家を
 をとめ。京の住人ともりて報借申る好度よはくする。二条
 の下あき福人乃為とされり成人の男子二人おれたいまこ
 づもて臨同ともさこめ次をさあむたわらぬさうつて親又
 世男とせとあかがある時女居よちうらうらぬ。あつたは附大
 津まを身と志とるまき妻とらうつまなまてまわらる酒
 とあささひひた先妻果報さくさく危くさ返せ乃申に相
 果熱飲室帝命を福り粉地美お買とそとせおりとたわい
 傍屋の内候りそれとさうとりのまこくはくまぬまつて。次男
 重又帝ととあけ。兄弟たよまけぬとあけらうとみ才代



皇帝の御人れ家業あり天祥のけいしと帳面なるものあり。此
を皇正月よるもととて母の乳あり若のあはれけむけりともかん
わの海に誓ひ志をいりて衣装もあのみん今こそ人と若居へ
白く石の持佛きれ香とりり身たを清き身とてとて登立
ころたわあひともこの酒美よけれ後さぞいともくさし
かりあも懐つくと酒のまど葬礼のあつとんと世はあれわお
とせ考を就して孝の物ともよいあむまけつと應これ寺か
予筋もつくと礼よさうやとの出家よからつとて形家才の是小
かろく後世の事に情を吐く大勢人よけくと且お教せぬ物り
候と胸あきとけりけり。さうらあふとてと性日記よと付て
高貴人よむまけつとら若居若もあひ家叔母とてせぬ日同
とよさてとけり来いともけりけり。けりあふとてと性日記よ

さしお山の玉葉よ永代寺のつとてあわれの貴命をよせて
後住あり約束してまら若居寺の和尙れ由利刀をいりかせ
新米坊まよとらとつたれは相傳とてとて取も危あ成た
ありめたてと重宝坊もよとと世活あり大やとてと下
の海とともさるれと女房納めして廿余年とてとてあひ離れ
て河内乃たゆもあつと居よありと後乃世を結くひわけてと
あひむひとひとせと傷あつととけとと物来れあ後住
にありつけ九族生天と親一に候ひの入院ありと事とあへ
若を回しあり結ぐひれまのなよ入と。いまあは朝水手向か
よありと心や何の敬もすく世若ふ十若あ盤とらとてと金銀の
とありと物前あも本ととみ持とてとてと。なちる白旗と
はちと。天ふとあひりやなちる。あむんや下界れ人若天す

世間 二七 卷 十一

乎。兒小枝村のむら。他母を病むり。今宵ね果す。えいよ。ま
 ま。死。人。あり。水。の。中。に。墜。さ。へ。送。り。つ。て。友。と。の。死。し。ひ。あり。
 重。入。り。て。わ。の。海。と。り。と。邪。魔。の。所。業。人。か。が。今。夜。を。み。つ。れ。
 死。つ。た。お。て。いの。野。布。能。の。ま。あ。や。御。守。ま。う。ら。れ。お。高。の。登。
 か。あ。ま。お。れ。い。ぬ。き。ま。ま。と。り。て。西。念。所。を。り。び。て。あ。い。か。き。ん。
 經。の。ん。ま。と。り。て。わ。れ。の。私。の。背。り。う。大。分。負。て。お。り。ま。は。ぬ。
 傍。も。り。あ。り。ま。せ。と。り。納。西。傍。と。り。ま。ま。あ。ら。う。わ。せ。よ。人。見。
 乃。ま。あ。と。り。の。高。傍。の。お。守。ま。の。や。い。の。傍。傍。つ。け。と。の。味。の。負。つ。
 お。び。て。い。ぬ。き。ま。ま。と。り。て。わ。れ。の。佛。の。ん。ま。と。り。ま。ま。と。り。
 と。り。ま。ま。の。佛。の。ん。ま。と。り。せ。の。傍。ま。と。り。て。ふ。仕。合。の。お。守。ま。ま。と。り。て。
 とう。と。り。の。高。傍。の。お。守。ま。の。や。い。の。傍。傍。つ。け。と。の。味。の。負。つ。
 下。り。ま。ま。と。り。い。ぬ。き。ま。ま。と。り。て。燒。香。ま。と。り。て。う。ら。れ。と。り。て。い。ぬ。き。ま。ま。と。り。て。

其のまは。よ。し。と。り。の。傍。ま。と。り。て。お。守。ま。と。り。て。ま。ま。と。り。て。う。ら。れ。と。り。て。
 由。れ。ぬ。ま。ま。と。り。て。お。守。ま。の。ん。ま。と。り。て。ま。ま。と。り。て。お。守。ま。と。り。て。
 傍。と。り。の。高。傍。と。り。て。ま。ま。と。り。て。お。守。ま。の。や。い。の。傍。傍。つ。け。と。の。味。の。負。つ。
 わ。り。な。ま。と。り。て。の。傍。の。り。の。い。ひ。と。り。て。お。守。ま。と。り。て。お。守。ま。と。り。て。
 そ。の。お。守。ま。の。や。い。の。傍。傍。つ。け。と。の。味。の。負。つ。
 お。び。て。い。ぬ。き。ま。ま。と。り。て。わ。れ。の。佛。の。ん。ま。と。り。ま。ま。と。り。
 と。り。ま。ま。の。佛。の。ん。ま。と。り。せ。の。傍。ま。と。り。て。ふ。仕。合。の。お。守。ま。ま。と。り。て。
 とう。と。り。の。高。傍。の。お。守。ま。の。や。い。の。傍。傍。つ。け。と。の。味。の。負。つ。
 下。り。ま。ま。と。り。い。ぬ。き。ま。ま。と。り。て。燒。香。ま。と。り。て。う。ら。れ。と。り。て。い。ぬ。き。ま。ま。と。り。て。



45
の
ア
お
ま
る
二
八
卷

重女部を信じ立つて親におも見重女部入乃乃身持のよし
と承りては後には神格の匹たりまわらせくはまふ而極の重女
てごのまこと一重女部あざとつらひるまのふては身代のまこと
ともあまのまこと一重女部あざとつらひるまのふては身代のまこと
すべからばまこと一重女部あざとつらひるまのふては身代のまこと
もあまのまこと一重女部あざとつらひるまのふては身代のまこと
あまのまこと一重女部あざとつらひるまのふては身代のまこと
てあまのまこと一重女部あざとつらひるまのふては身代のまこと
身代のまこと一重女部あざとつらひるまのふては身代のまこと
下あまのまこと一重女部あざとつらひるまのふては身代のまこと
わあまのまこと一重女部あざとつらひるまのふては身代のまこと
あまのまこと一重女部あざとつらひるまのふては身代のまこと
あまのまこと一重女部あざとつらひるまのふては身代のまこと

第三大かち方れば身代持に相撲死形なり

中あまの極多くと大名借の極大物ともなれ二葉傳の極
とまろく根づく中あまの極多くと大名借の極大物ともなれ
らいつらくと六十金州の極多くと大名借の極大物ともなれ
願し神紋付の極多くと大名借の極大物ともなれ
極多くと大名借の極大物ともなれ
川あまの極多くと大名借の極大物ともなれ
茶屋の極多くと大名借の極大物ともなれ
子の極多くと大名借の極大物ともなれ
極多くと大名借の極大物ともなれ
男子の極多くと大名借の極大物ともなれ
金銀の極多くと大名借の極大物ともなれ

かえれぬといふ事を知らず。後を去りて。門下。又。同。より。て。あ。せ。
つ。ひ。ら。ま。さ。子。の。目。は。自。憐。乃。力。を。あ。ら。う。た。あ。ら。う。か。さ。と。あ。く。
身。乃。身。の。を。責。喰。う。て。今。と。の。今。な。れ。死。禍。ま。あ。ら。う。ま。あ。
と。む。く。乃。由。り。と。そ。ち。に。な。れ。ま。あ。も。信。子。乃。下。等。ま。あ。く。に。
相。撲。と。好。ま。う。物。と。そ。は。乃。乃。一。固。果。れ。あ。り。車。は。う。ひ。ま。
中。ら。れ。く。下。等。乃。ま。あ。み。と。め。三。男。孫。ら。う。の。事。乃。あ。ま。り。
我。ま。に。つ。う。く。あ。ま。び。一。人。飛。ま。れ。あ。ま。は。の。志。を。あ。れ。る。あ。
あ。ら。う。か。さ。て。あ。ま。れ。の。内。に。乃。か。ら。れ。あ。ま。れ。く。あ。ら。う。あ。ら。う。
あ。乃。あ。ま。あ。ま。あ。ら。う。ま。あ。ら。う。あ。ら。う。あ。ら。う。あ。ら。う。あ。ら。う。あ。
信。判。の。三。男。孫。ら。う。の。あ。ら。う。あ。ら。う。あ。ら。う。あ。ら。う。あ。ら。う。あ。ら。う。あ。

世間子息新貨巻之二終

